

議案第65号

世田谷区登録天然記念物への登録の諮問(4件)

上記の議案を提出する。

令和5年12月12日

(提出者)
世田谷区教育委員会
教育長 渡部 理枝

(提案説明)

区文化財保護条例第54条に基づき、樹木4件の世田谷区登録天然記念物への登録について文化財保護審議会に諮問するため、本案を提出する。

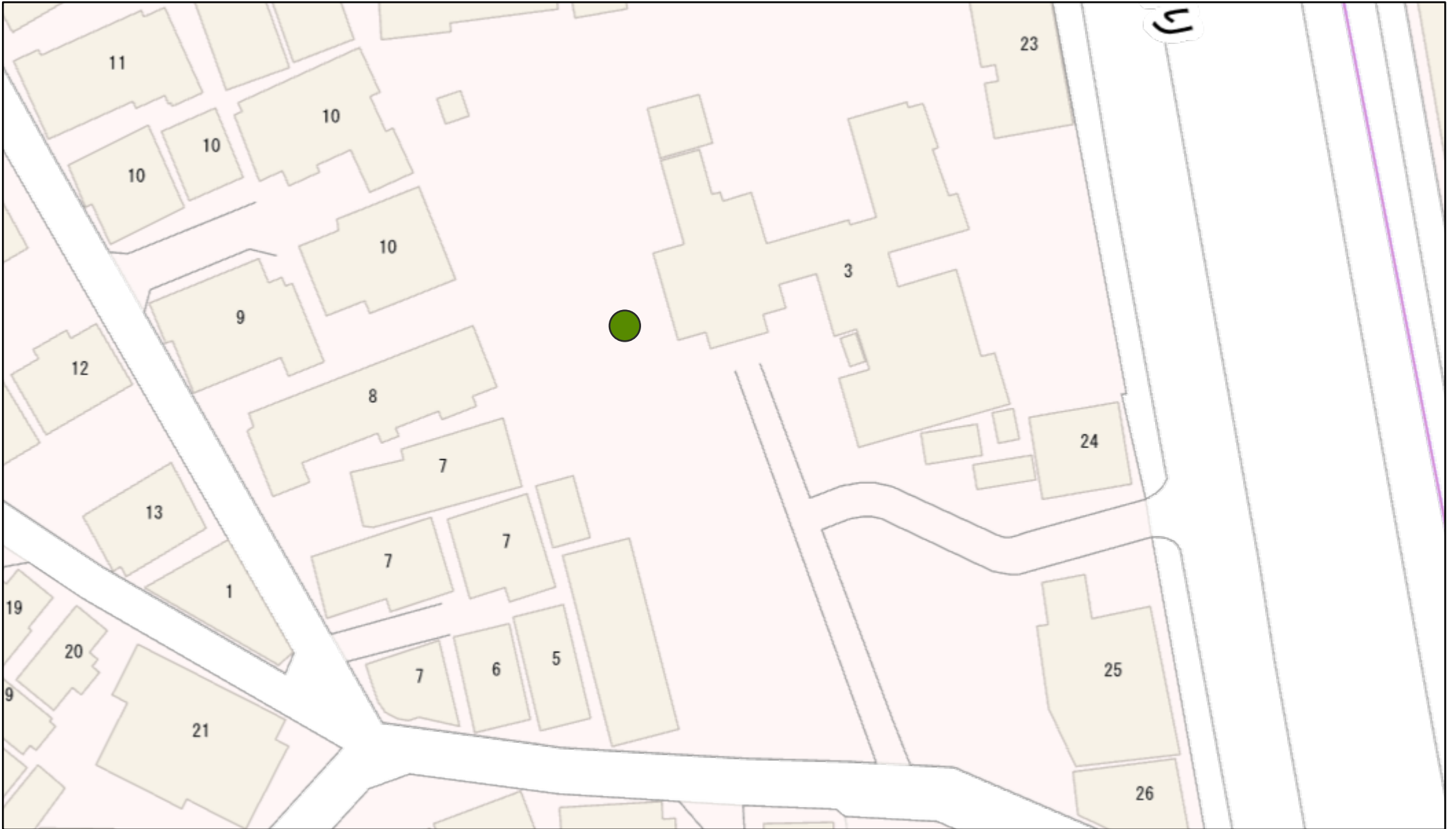
諮問候補の概要

1	名称及び員数	駒留八幡神社のクロマツ 1本
2	種別	世田谷区登録天然記念物(植物)
3	所在地	世田谷区上馬五丁目35番3号
4	所有者	宗教法人 駒留八幡神社 代表役員 齋藤憲輝
5	概要	
	(1) 内容	<p>樹木の位置 X座標 -39790.02 Y座標 -15659.20</p> <p>樹高 30.0メートル 幹周 3.90メートル 根元周囲 5.0メートル</p>
	(2) 沿革	<p>駒留八幡神社は、近世・上馬引沢村の鎮守である。</p> <p>馬引沢の地名は、文治4年(1188)鎌倉右大将・源頼朝が奥州征伐に立ち、この地を芦毛の馬で通過した際、沢に陥った馬を引き上げたという故事に因んでいる。</p> <p>また、当社には、中世世田谷吉良氏にまつわる伝承も残されている。吉良頼康は、愛妾・常盤とその嬰兒の死をいたみ、神社相殿として常盤を弁天社に、子を若宮八幡に祀ったという。</p> <p>江戸時代の領主・大久保伊賀守は、天和2年(1682)に当社の修造を行い、石階を寄附したとき経筒を発見した。そこには「西明寺時頼公守本尊経塚駒留八幡宮、北条左近太郎入道成願奉安鎮所」の銘と徳地3年(1308)の年号があったともいう。</p>
	(3) 本樹の特徴、生育立地及び現状	<p>クロマツは(学名: <i>Pinus thunbergii</i>) マツ科、マツ属の常緑針葉高木である。</p> <p>広い境内には樹高の高いマツが散在し、イチョウやケヤキも目立つ。本樹は単独で生育し、周囲には風や日照を遮るものはなく生育空間は広く保たれている。</p> <p>幹はほぼ通直(若干弓なり状)となって上方に伸びている。幹に端から上方に10~15センチメートル幅でらせん状に材が露出した部分がある。また、高さ15メートル程の位置には横方向に、えぐれた形状で大きな損傷部(かつての病害痕の可能性大)があるが、現在腐朽は進んではないと考えられる。下枝高は高く、大枝は高さ15メートル程から上で発生し、四方に伸びている。大枝は付け根部からやや下方に下がり、先端は斜め上方に向いて成長を続け、自然樹形を形作っている。枝の伸長は良好だが、枝葉密度はやや小さく、樹冠の上方針葉は小形化している。</p>

写真

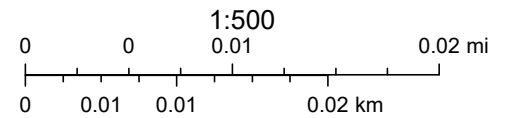


駒留八幡神社のクロマツ 全景



2023/11/9

登録 駒留八幡神社のクロマツ 1本



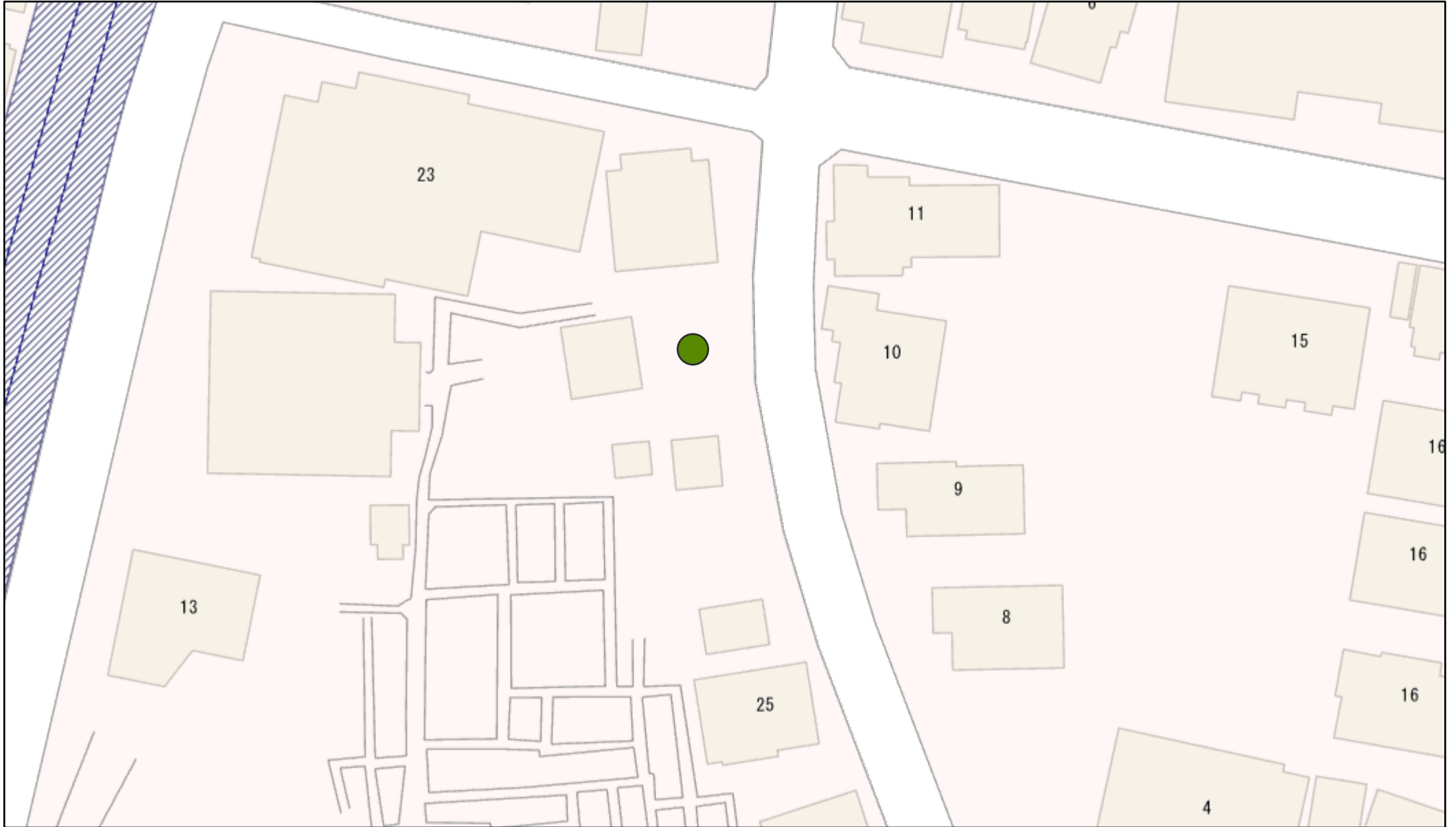
諮問候補の概要

1	名称及び員数	行善寺のヒノキ 1本
2	種 別	世田谷区登録天然記念物（植物）
3	所 在 地	世田谷区瀬田一丁目12番23号
4	所 有 者	宗教法人 行善寺 代表役員 渡辺 俊雄
5	概 要	
	(1) 内容	<p>樹木の位置 X座標－42566.86 Y座標－18424.03</p> <p>樹 高 17.0メートル 幹 周 3.05メートル 根元周囲 3.25メートル</p>
	(2) 沿革	<p>行善寺の歴史は古く、その前身は、^{きよつろく}享禄2年（1529）に芳蓮社印誉伝公上人を開山として建てられた小庵であった。瀬田を拠点とする小田原北条氏の家臣・長崎氏は、その小庵のところへ、小田原から長崎氏建立の道栄寺を移して、西光院行善寺と改めた。</p> <p>行善寺からの眺望は絶景で「玉川八景」、「行善寺八景」などと称され、江戸幕府将軍も遊覧した名所であった。門前には、寺名に因み「行善寺坂」と呼ばれる旧道・大山道が通過する。</p>
	(3) 本樹の特徴、生育立地及び現状	<p>ヒノキは（学名：<i>Chamaecyparis obtusa Sieb. et Zucc</i>）ヒノキ科、ヒノキ属の常緑針葉高木である。境内で、イチョウ、ケヤキ、タイサンボクおよびスダジイなどと共に生育する中で、イチョウと樹冠が接する。根元は割石積みに接近して囲まれ、周辺の砂利敷よりも50～60センチメートル程高くなっている。</p> <p>幹は高さ3メートル程で三方に分岐（それぞれの太さは50～60センチメートル程度）し、その後適度な間隔を保って、通直に上方に伸びている。そのうち1本はさらに2本に分岐しているが、その東側の幹は高さ8メートル程で枯死し、代わりに側枝が通直に伸長して樹冠の構成に加わっている。最下段の枝の高さ（枝下高）は6メートル程で細く、樹冠を構成する他の各枝と太さは殆ど変わらない。枝打ちをした形跡は見られず、自然樹形を保っている。枝の伸長量および枝葉密度は正常である。また、根元付近の割石積みの隙間からは細根や中径の根が現れ、地中に向かって伸びている。この現象は、かつて根元が土壌で小規模なマウンド状となっていたことが想定される。</p>

写真

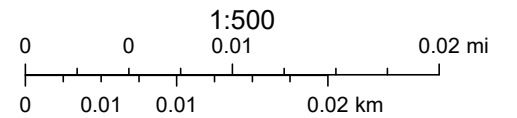


行善寺のヒノキ 全景



2023/11/9

登録 行善寺のヒノキ 1本



諮問候補の概要

1	名称及び員数	静嘉堂のギンモクセイ 1本
2	種 別	世田谷区登録天然記念物（植物）
3	所 在 地	世田谷区岡本二丁目23番1号
4	所 有 者	公益財団法人 静嘉堂 理事長 佐々木幹夫
5	概 要	
	(1) 内容	<p>樹木の位置 X座標－41843.78 Y座標－19379.88</p> <p>樹 高 12.0メートル</p> <p>幹 周 1.5メートル（最も太いもの）</p> <p>根元周囲 3.10メートル</p>
	(2) 沿革	<p>静嘉堂は、明治時代に三菱財閥の岩崎彌之助・小彌太父子によって蒐集された古典籍や東洋古美術をおさめた文庫である。文庫は、はじめ東京駿河台の岩崎邸内に設けられたが、高輪を経て大正13年（1924）、現在地・岡本に移転した。静嘉堂文庫の建物は、東京都選定歴史的建造物となっている。岡本は岩崎家廟として明治43年（1910）に納骨堂が建設されて以来、岩崎家にゆかりの地で、廟所は国分寺崖線の台地上にあり、周囲は岡本静嘉堂緑地として保護されている。</p>
	(3) 本樹の特徴、生育立地及び現状	<p>ギンモクセイは、（学名：<i>Osmanthus fragrans</i>）モクセイ科、モクセイ属の常緑広葉高木である。</p> <p>本樹は広大な敷地の一角で、北、西および南方向で施設に囲まれて生育する。また、北及び西の施設と本樹の間には、円筒状に剪定管理された樹高の高いヒマラヤスギ5本がそびえるが、日照を遮るものではなく、また建物に囲まれることで風害の可能性は小さい。根元周辺を含む広場は砂利敷きとなっている。</p> <p>幹は根元から大きく4本に分かれ、さらにその上で8本から10本に分岐し、それから伸びる枝々で樹冠が構成されている。南方向に伸びる株は株元部分で幹割れをおこし、根元から大きく傾斜している。樹冠を構成する四方に伸びる多くの枝には支柱が設置され、枝折れや幹折れ防止策がとられている。枝葉密度は高いが、樹冠上方で葉は小形化している。</p> <p>根株元周りは玉石で囲まれ、保護されている状況である。</p>

写真



静嘉堂のギンモクセイ 全景



静嘉堂のギンモクセイ 根元部分

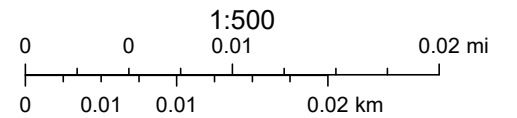
諮問候補

10



2023/11/9

登録 静嘉堂のギンモクセイ 1本



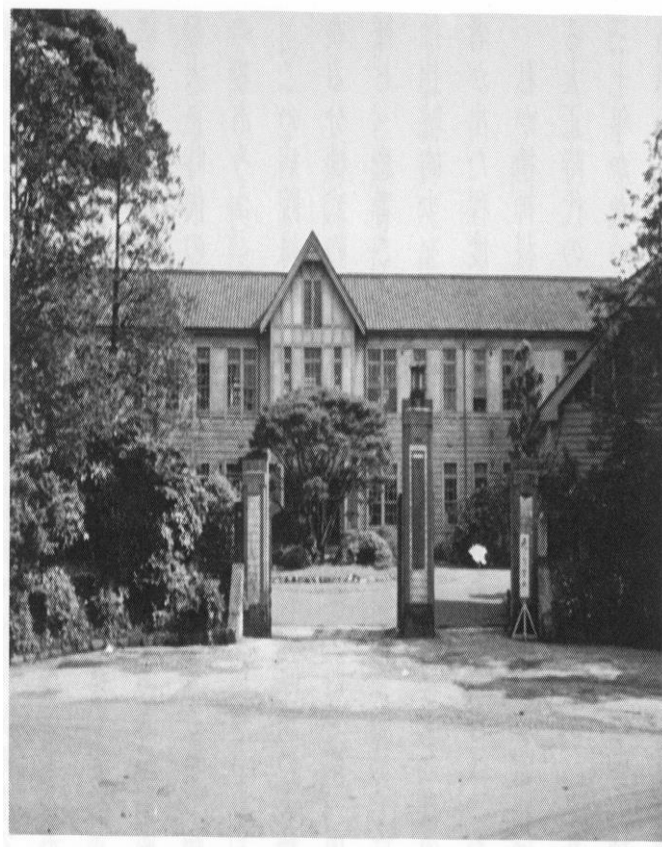
諮問候補の概要

1	名称及び員数	松沢病院のタギョウショウ 1本
2	種 別	世田谷区登録天然記念物 (植物)
3	所 在 地	世田谷区上北沢二丁目1番1号
4	所 有 者	地方独立行政法人東京都立病院機構 理事長 安藤立美
5	概 要	
	(1) 内容	<p>樹木の位置 X座標-36678.76 Y座標-19431.10</p> <p>樹 高 8.0メートル 幹 周 1.45メートル 根元周囲 3.98メートル</p>
	(2) 沿革	<p>松沢病院は、明治12年(1879)、東京府癲狂院として上野公園内に開設された。明治19年(1886)小石川区巢鴨駕籠町(現在の文京区)に移転し東京府巢鴨病院と改称した。大正時代に入り、病院周辺の人口が増加して静穏な医療環境が得られなくなったため東京府は荏原郡松澤村(現在地)への移転を決め、大正8年(1919)年、東京府立松沢病院となった。</p> <p>約6万坪の広大な敷地内には、人工の將軍池、加藤山などがあり、数多くの植物が栽培育成されている。以前は、京王電鉄松沢駅(現在の八幡山駅の150メートル東寄り)側に正門が設けられていたが、昭和48年、新本館の竣工にあわせ赤堤通り沿いに変更された。</p>
	(3) 本樹の特徴、生育立地及び現状	<p>タギョウショウは(学名: <i>Pinus densflora f. umbraculifera</i> Mayr)マツ科、マツ属の常緑針葉樹で、アカマツの園芸品種である。</p> <p>広大な敷地は長い外周緑地で囲まれ、外周緑地に沿った位置で広い駐車場の際で、小島状の小さな緑地内に孤立して生育している。本樹の近くには樹高の高いイチョウがあるが、その他は本樹とほぼ同一の樹高の高木が生育している。周囲に日照を遮るものはなく、広い空間が保たれている。</p>

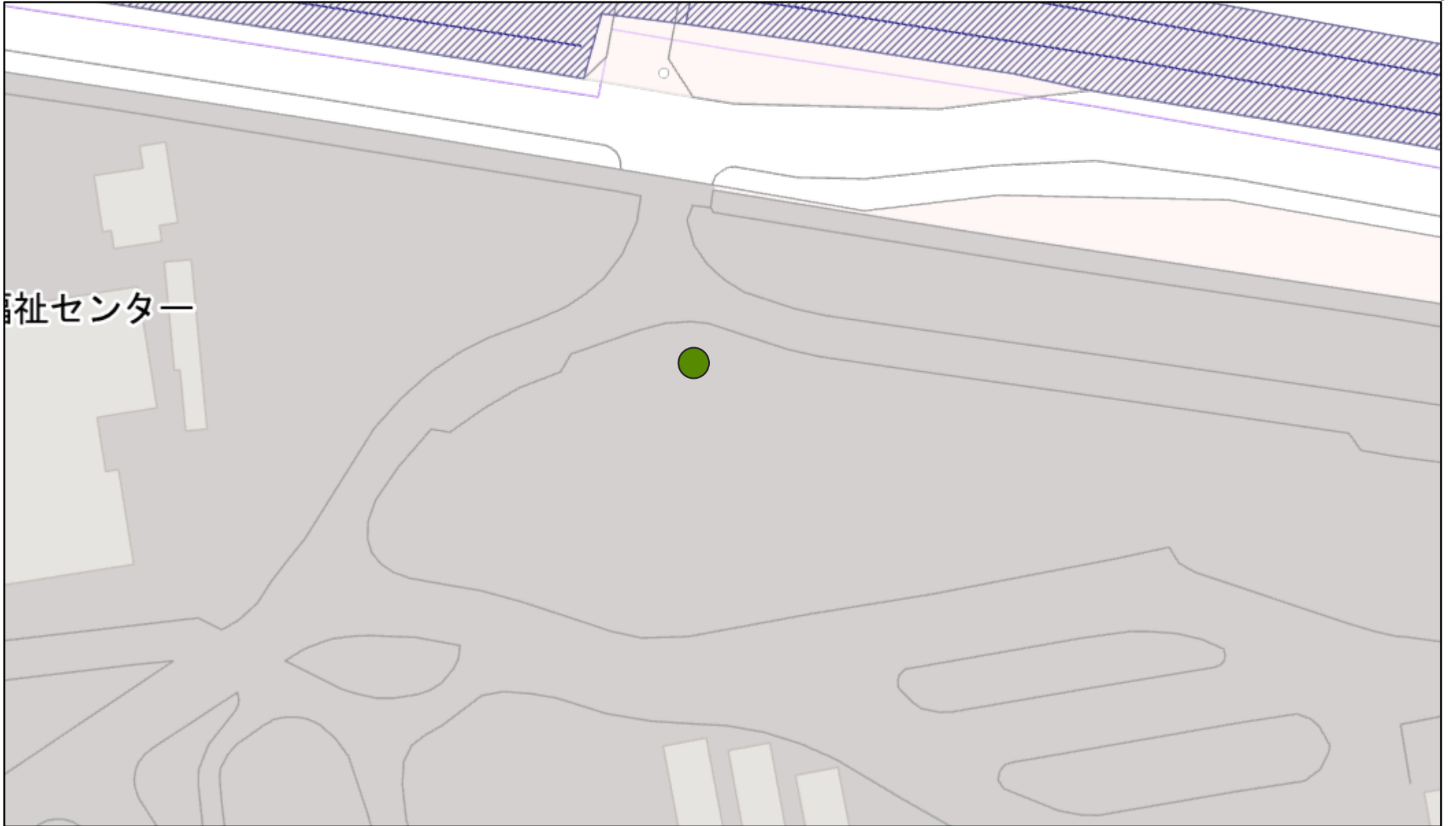
写真



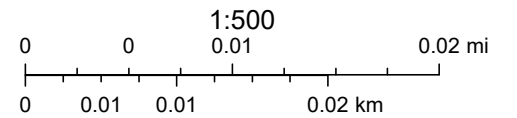
松沢病院のタギョウショウ 全景

大正8年に建築された改築前の松沢病院の
正門と本館（昭和48年に新本館竣工のため
取り壊された）

出典：『松沢病院院長日記』7ページ



2023/11/9



登録 都立松沢病院のタギョウショウ 1本